



令和3年12月8日

報道機関 各位

2021年度山陰研究交流会を開催します

災禍の記憶の語りと継承—近世山陰の飢饉に関する実録類など—

◆本件のポイント！

・山陰研究センターの研究活動から、毎月1テーマずつわかりやすく成果をお伝えします

◆本件の概要

島根大学山陰研究センターは、「2021年度山陰研究交流会」を開催します。

本交流会は、山陰研究センターの研究成果を報告し、研究プロジェクト間の研究交流を推進すると同時に、わかりやすい内容で専門分野外の人にも研究内容について理解を深めてもらうことを目的として、継続的に開催するものです。

今回は、法文学部・田中則雄教授が、江戸時代、山陰で起こった飢饉、それに伴う一揆などに関する資料を元に、そうした資料を書き残した人々の意図について考察した結果を報告します。

江戸時代は、享保(1700年代前半)、天明(同後半)、天保(1800年代前半)など、度々飢饉に見舞われ、山陰でも深刻な食糧危機が生まれました。このような災禍を経験した人々の中には、何故ここまで苛酷な事態となったのか、その原因を考え、失敗に学ぶべく後の世代へ語り継ごうとしたり、非常事態の中で人間がどう行動したかを冷静に観察して書き残したりする人がいました。また、農作物や人の健康に及んだ被害の実態を、データとして淡々と記述した人もいますが、そこにも一種のメッセージが込められているように思います。

現在私たちが置かれている厳しい状況にどう対処すべきかという課題を考えるにあたって、過去の人々のこうした営みは示唆を与えてくれるように思われます。

◆概要内容

「2021年度山陰研究交流会」

【日 時】2022年1月5日(水) 16:00~17:30

【テ ー マ】災禍の記憶の語りと継承—近世山陰の飢饉に関する実録類など—

【発 表 者】田中 則雄(島根大学法文学部・教授)

【開催方法】ZOOMによるオンライン(要事前申込み)

◆本件の連絡先

島根大学法文学部山陰研究センター

電 話:0852-32-9833

メール:admin-src[at]soc.shimane-u.ac.jp ※[at]は@に置き換えてください

案内 HP: <https://www.src.shimane-u.ac.jp/docs/2021101300019/>

【添付資料: あり(1枚) なし】

2021年度 山陰研究交流会



参加無料・オンライン

山陰研究交流会では、現時点での研究成果を報告し、それをもとに議論を行うことで、プロジェクト間の研究交流を推進しています。同時に、分かりやすく焦点を絞った話をしていただくことで、専門分野外の人にも研究内容について理解を深めてもらうことを目的として、継続的に開催するものです。

参加無料です。どなたでも、お気軽にご参加ください。

●日時

2021年10月27日(水)～2022年2月2日(水)16:00～17:30(全4回)

【問い合わせ先】

島根大学法文学部山陰研究センター
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
【電話】0852-32-9833

●参加方法

ホームページ掲載の申込み方法をお読みいただき、各開催日の前日までにお申込み下さい。

2021年
45 **10/27**
共催：島根大学人間科学部

福祉総合相談拠点における個別支援と地域支援の統合方法

—松江市地域包括支援センターの事例より—

発表者：加川 充浩（島根大学人間科学部）

46 **12/1**

島根県に在住する社会人の学びの実態

—何が学びを促し、大学が果たすべき役割は何か—

発表者：原田 健太郎（島根大学 大学教育センター）

2022年
47 **1/5**

災禍の記憶の語りと継承

—近世山陰の飢饉に関する実録類など—

発表者：田中 則雄（島根大学法文学部）

@山陰研究プロジェクト「山陰地域の文学・歴史関係資料の研究と活用に関するプロジェクト」

48 **2/2**

自治体公文書の評価選別に関する現状と課題

発表者：清原 和之（島根大学法文学部）

@山陰研究共同プロジェクト「市民参加による自治体公文書の評価選別に関する理論的・実践的研究」(清原和之、小林准士、毎熊浩一)